

➤ 17日 水曜

列王Ⅱ

12:1 ヨアシュはエフーの第七年に王となり、エルサレムで四十年間、王であった。彼の母の名はツィブヤといい、ベエル・シェバ出身であった。

12:2 ヨアシュは、祭司エホヤダが彼を教えた間、いつも【主】の目にかなうことを行なった。

12:3 ただし、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。

12:4 ヨアシュは祭司たちに言った。「【主】の宮に献げられる、聖別された金のすべて、すなわち、それぞれに割り当てを課せられた金や、自発的に【主】の宮に献げられる金のすべては、

12:5 祭司たちが、それぞれ自分の担当する者から受け取りなさい。神殿のどこかが破損していれば、その破損の修繕にそれを充てなければならない。」

12:6 しかし、ヨアシュ王の第二十三年になっても、祭司たちは神殿の破損を修理しなかった。

12:7 ヨアシュ王は、祭司エホヤダと祭司たちを呼んで、彼らに言った。「なぜ、神殿の破損を修理しないのか。もう、あなたがたは、自分の担当する者たちから金を受け取ってはならない。神殿の破損にそれを充てなければならないからだ。」

12:8 祭司たちは、民から金を受け取らないことと、神殿の破損の修理に責任を持たないことに同意した。

ヨアシュにはエホヤダが必要でした。本当は彼がいなくても、主の目にかなうことをすべきでしたが、彼の信仰は自立的ではなかったのです。私たちも誰



かの指導や影響の中で信仰が励まされているということがあられるでしょう。その人に感謝しつつ謙遜であることが大切です。

ヨアシュは良い信仰を持っていたようですが、「高き所は取り除か」ずにいて、間違った礼拝をしていました。主に従うとういうのは、すべてしたがってこそ、従順と言えます。「これくらいはいいだろう」と高をくくっていると、そこから自己中心になり、そこをサタンに用いられることがあるので注意が必要です。

祭司たちは、主に仕える意欲がありませんでしたから、その立場は意味をなしませんでした。主への奉仕は立場によるものではありません。何かの役目や係になっているだけで、奉仕している気になってはいないでしょうか。または自分は役目ではないからやらなくても良いと、口実にしてはいないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

